

# トランスジェンダーも過ごしやすい環境について

～神田女学園の現状との比較～

高校2年

## 目次

1.はじめに.....	1
2.研究方法.....	1
3.結果	
3-1昨年度のまとめ.....	1
3-2神田女学園の現状.....	3
4.現状の提案.....	6
5.返答の分析.....	7
6.結論.....	8
参考資料一覧.....	8

## 1.はじめに

### 〈問題と目的〉

現代の日本社会では以前よりは減少してきたとはいえ、未だ多くのジェンダーの問題が残っている。自分自身がトランスジェンダー(\*1)であることも踏まえ研究を始めた。トランスジェンダーが男女別学に行く理由は保護者に進学先を決められたなどの家庭の事情や入学後にトランスジェンダーだと気づくなど様々なものが考えられる。そのため男女二元論で考えても差し支えないように、男女別学でもジェンダーの問題は切り離せないものになっている。例を挙げると性別を問う必要性のあまりない場面で性別の話を持ち出す、男女二元論が多く残る服装などの問題である。

今回は、このような問題を特にトランスジェンダーの視点から現状と解決策を提示していきたい。そうすることによって一人でも多くの方が生きやすい社会にしていきたい。

(\*1)こころの性別とからだの性別が一致していない人 <https://jobrainbow.jp/magazine/transgid>  
2024/02/04

## 2.研究方法

昨年度実施した「性別に違和感のある人が世の中に求めるもの」というアンケートの結果を元に神田女学園の現状とアンケート結果を照らし合わせ、何ができていて何が課題として残っているのかを洗い出していく。そして、浮き彫りになった課題へどうアプローチして改善していけば良いのかを現実的な方法で提示していきたい。

## 3.結果

### 3-1昨年度のまとめ

昨年度「性別に違和感のある人が世の中に求めるもの」というアンケートを2023年1月16日～同年1月31日にX(旧Twitter)にて自身の性別に違和感のある人75人を対象に実施した。以下にアンケート結果をまとめる。

#### (1)職業

社会人25人(33.3%)・高校生23人(30.7%)・大学生10人(13.3%)・中学生9人(12%)・浪人生4人(5.3%)・主夫/短大生/無回答が各1人(1.3%)

職業	人数	%
社会人	25	33.3
高校生	23	30.7
大学生	10	13.3
中学生	9	12
浪人生	4	5.3
短大生	1	1.3
主夫	1	1.3

無回答	1	1.3
-----	---	-----

## (2)ジェンダー

FTM43人(57.3%)・FTX19人(25.3%)・MTF4人(5.3%)・MTX2人(2.7%)ノンバイナリー/未診断  
FTMだったり無性だったり中性だったりする/FTMかもしれないが各1人(1.3%)・無回答4人(5.3%)

ジェンダー	人数(人)	%
FTM	43	57.3
FTX	19	25.3
MTF	4	5.3
MTX	2	2.7
ノンバイナリー	1	1.3
未診断FTMだったり無性だったり中性だったりする	1	1.3
FTMかもしれない	1	1.3
無回答	4	5.3

FTM:生まれた時の性は女性で自身のことを男性と認識している人(*Female to Male*)

FTX:生まれた時の性は女性で自身のことをXジェンダーと認識している人(*Female to X*)

MTF:生まれた時の性は男性で自身のことを女性と認識している人(*Male to Female*)

MTX:生まれた時の性は男性で自身のことをXジェンダーと認識している人(*Male to X*)

ノンバイナリー:自身の性自認・性表現に「男性」「女性」といった枠組みをあてはめようとしらない人

FTM・FTX・MTF・MTX 出典:<https://jobrainbow.jp/magazine/transgid> 2024/2/16

ノンバイナリー 出典:<https://jobrainbow.jp/magazine/whatisnonbinary> 2024/2/16

## (3)学校や就職先に求める対応はありますか

服装などの配慮61人(81.3%)・望む性別での対応59人(78.7%)・通称名の使用56人(74.7%)・宿泊行事でのお風呂44人(58.7%)・トイレの配慮43人(57.3%)・プールや海での対応36人(48.0%)・宿泊行事での部屋割り33人(44.0%)・情報管理1人(1.3%)・体育やその他授業での男女組分け1人(1.3%)・体育の授業を男女合同にする1人(1.3%)・なし0人(0.0%)

学校や就職先に求める対応	人数	%
服装などの配慮	61	81.3
望む性別での対応	59	78.7
通称名の使用	56	74.7
宿泊行事でのお風呂	44	58.7
トイレの配慮	43	57.3
プールや海での対応	36	48
宿泊行事での部屋割り	33	44
情報管理	1	1.3

体育やその他授業での男女組分け	1	1.3
体育の授業を男女合同にする	1	1.3
なし	0	0

#### (4)HP等に対応を書いて欲しいと思いますか

思う50人(66.7%)・思わない19人(25.3%)・詳細な内容までは書かなくていいと思います。ただ、「性違和で不安なことがある方はお問い合わせください」のようなことが書いてあったら、問い合わせもしやすいかなと思いました。1人(1.3%)・社会全体が対応できる状態になれば、個々の企業が書く必要は無くなって望ましい。1人(1.3%)・どちらでもいい1人(1.3%)・無回答3人(4.0%)

HP等に対応を書いて欲しいと思うか	人数	%
思う	50	66.7
思わない	19	25.3
詳細な内容までは 書かなくていいと思います。 ただ、「性違和で不安なことが ある方はお問い合わせください」 のようなことが書いてあったら、 問い合わせもしやすいかなと思いました。	1	1.3
社会全体が対応できる状態になれば、 個々の企業が書く必要は無くなって望ましい。	1	1.3
どちらでもいい	1	1.3
無回答	3	4

上記の結果から服装や望まない性別での対応、名前、宿泊行事、トイレの使用などで特に問題を抱えている人が多いことがわかった。次に神田女学園ではどのようになっているのかあげていきたい。

#### 3-2神田女学園の現状

神田女学園などの別学であっても全ての生徒のこころの性別が女性のみ/男性のみと決まっているとは限らないという前提を元に、昨年度のアンケート結果で求めている人の多かったものから順番に見ていきたい。

最初に服装に関してである。まずは制服を見ていく。神田女学園では2019年4月からネクタイが導入され、2020年10月から冬用のスラックスが導入された。2022年1月頃からスラックスとネクタイが正装として許可された。そして夏用のスラックスは2023年6月頃に導入された。このように制服は徐々に性別に違和感のある人も着用しやすいものにはなっている。だが、スラックスの形は女子用になっており男子用に比べるとくびれが強調されていたりする。女性にはくびれがある人が多く男性には少ないことからFTMの人の中にはくびれが強調されることを嫌がる人も多い。他にも男女でボタンをかける方向が逆であるため、そこに抵抗を感じる人もいる。

次に体操着に関してである。体操着は2022年4月から赤のもの(図1)からピンクのラインのもの(図2)に変わり、2023年9月頃にオプションとして青・紫・緑(図3)の3種類が追加された。だが、レディース用で袖が男女共用のものに比べ短かったり上から下にかけて若干窄まっていたり体型が目立ちやすくなっている。そして、オプションの色は半袖半ズボンのみのため、ピンクが着られない場合は半袖半ズボンという夏の装いで真冬も授業を受けることになってしまう。ピンクが着られないというのは本人の意思の問題かもしれないが、どうしてもまだピンクは女の子、青は男の子のような印象を持つ人がいたりするため性別に違和を持つ当事者は周りの目を気にして着られない。これは健康の問題にもつながる。



(図1)

(図2)

(図3)

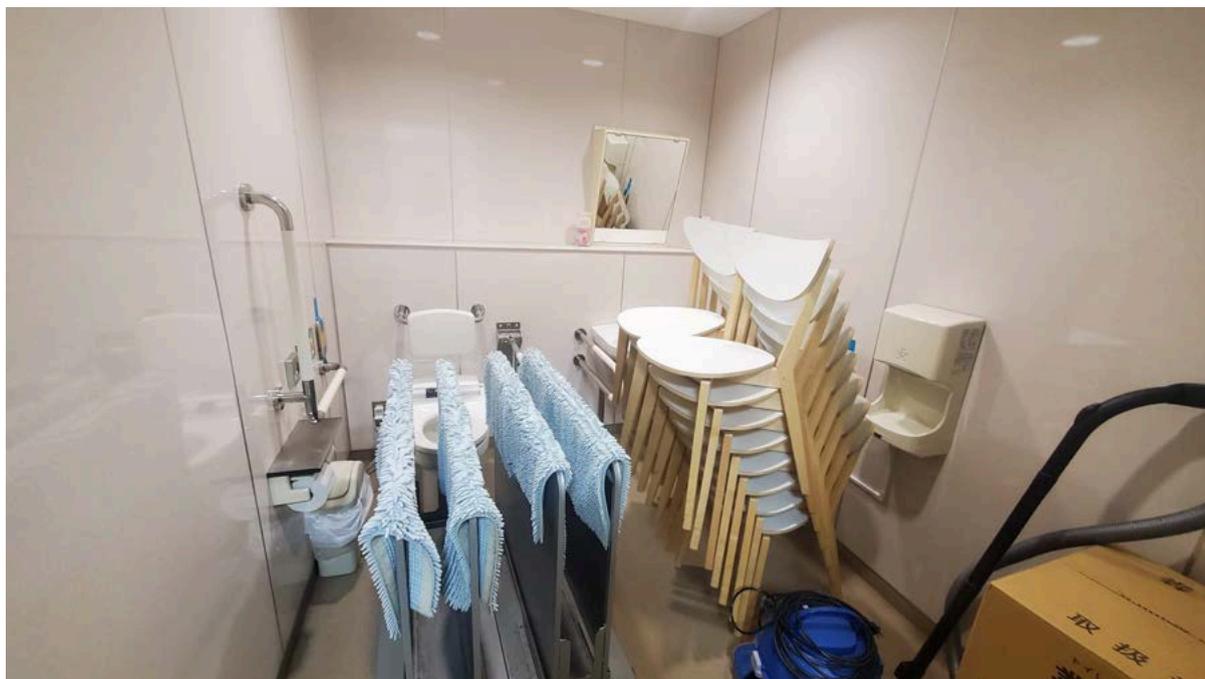
次に望まない性別での対応に関してである。神田女学園は女子校である性質上、女子として扱われることがとても多い。授業中などに特に女子という必要性のない性別を問わない場面で敢えて「女子だから」とか女性として生きていく前提で話されることがある。話している本人は気づいていないケースもある。そして知らず知らずのうちに傷つけてしまっている場合がある。

次に名前に関してである。苗字には男性も女性もないが、名前には性別が反映されていることが多い。最近では中性的な名前が増えてきているが、全てがその通りではない。そのため、男女どちらかに多いものや性別がわかりやすいようなものである場合は、トランスジェンダーは名前を呼ばれる度に自身の身体的な性別を思い出したりして不快な思いをすることになってしまう。神田女学園では現在、通称名こと別の名前を使用する行為の許可はされていない。

次に宿泊行事に関してである。宿泊行事では必ず男女に分かれた部屋であったり、人に身体を見られてしまう入浴の時間や着替えなどハードルとなるものが多々ある。また、FTMの場合は、日常生活の中で胸部が目立たないように胸を潰している人も多い。そんな中、他の人と同じ部屋で過ごしていると、24時間胸を潰す必要性が出てきてしまう。就寝時になると息苦しく、宿泊行事中は休まる時間がなくなってしまう。文部科学省(\*2)は支援の事例として1人部屋の使用を認めることや入浴時間をずらすことなどをあげている。だが、現在の神田女学園では入浴時間などの対応は行われているが、一人部屋の使用は認められていないのが現状である。そのため、着替えなどは個人で努力や我慢をするほかない。

(\*2)[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/27/04/1357468.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/1357468.htm) 2024/01/11

次にトイレの使用に関してである。トイレはだれでもトイレを除き基本的に男女が分けられている空間である。防犯などの必要性があるため現在は分けられている。そのため男女別のものを統合すべきだとは思わない。だが、トランスジェンダーである場合、戸籍の性別でトイレを使用することに抵抗を感じる当事者も多い。自身が望んでいない性別で周囲から見られる苦痛を受けたり、他の利用者に通報される可能性もある。そのため、だれでもトイレを使用することも多い。しかし、数が不足していたり周囲からの目などを気にして自宅以外では水分を控える人もいる。神田女学園にだれでもトイレは1階と7階にあるが、生徒の使用どころか物置状態になっている。来客者が使用することもできない(図4)。そのため、怪我をした生徒なども一切使用することができない。また現在、トランスジェンダーの生徒は休み時間にトイレを使用するたびに精神的苦痛を感じていても我慢するほかなくなっている。もし使用が可能となっても10分しかない休み時間に他の階にあるトイレを使用しに行くとなるとあまり現実的ではなくなってしまうが、トイレが原因で登校することに不安や苦痛を感じる生徒が減ると考えられる。



(図4)

以上の内容を簡単にまとめると女子校であっても男女共用デザインの制服や体操着を導入すること。不必要な場面での男女を分ける行為や男女を意識させる発言を無くしていくこと。通称名の使用を許可すること。宿泊行事で一人部屋の使用を認めること。だれでもトイレを使用できるようにし生徒の利用を許可することなど、すぐには実現が難しいものもあるが神田女学園の現状が見えてきた。

#### 4 現状の提案

以上を踏まえ、神田女学園芦澤校長先生と生活指導部の山崎先生に実現可能かどうかを提案し意見をもらった。

Q1.現在の制服や体操着のデザインは女子用となっており、男子用や男女共用のものには無いくびれなどが目立つデザインになっています。今後制服や体操着のデザインを変更する際にくびれなどが目立ちにくく身体のラインが隠れやすい男女共用のデザインにすることについてどう思いますか？

芦澤校長:制服などは生徒達にとっては重要な生活アイテムであり、教員サイドが一方向的に押し付けるものではないものと考えています。もちろん業者様とのつながりもあるので、そのような状況下で生徒達が望む形に変えていくのが良いと思っています。現状も生徒会と学校との協議の元、スラックス・ネクタイなどの導入が行われてきました。したがって生徒達の要望として男女共用デザインという課題が上がってくれば検討事項になると考えています。

山崎先生:男女兼用デザインにするか、選べるようにするか今は選択肢が女子用しかないので、選べるように検討していきたいと思います

Q2.普段の授業や集会などで性別の必要のない場面で「女子だから」などの発言が見られ傷ついている生徒も居ます。今後教員内で減らしていく予定はありますか。

芦澤校長:現状、男女の性差に関して必要のない場面での「～だから」という発言は不相当と考えます。しかしながら、男女性差は存在するわけで、すべてが男女平等ではないと考えていますので、状況によっては「男性として」「女性として」というような性差に関する発言は存在してくると思っています。必要のない性差に関する発言は控えるべきと考えています。

山崎先生:研修などを通して減らしていくことが大切だと考えます

Q3.名前を呼ばれることで性別を意識してしまい自分の名前を見たくない生徒もいます。今後、性別違和などを理由に通称名の使用を認める可能性はありますか。

芦澤校長:昔は日本国籍外の生徒が日本名を通称として使用していた時代がありましたが、現在は多様性を尊重する中で、通称を使うことは無くなってきました。本来は通称を使うことは現在の状況から鑑みると逆行することになると思いますが、ある程度、使うことは止むを得ないと思いますが、本校は女子校であり、その状況を考えると、完全な男性名を通称として使うのは難しいのではないかと考えています。(男女兼用の名前ならばよいのではないのでしょうか？例:薫・礼・歩など)

山崎先生:質問を読んで、そのとおりだなと思いました。

認められる学校になることを先生としても希望したいです。ただ通称名というのがどういったものか、また、周りの生徒に呼ばれている生徒が偏見を持たれてしまうのではないかと考えています。苗字をさん付けで呼ぶのが良いと考えます。

Q4.着替えや健康上の問題もありますが、宿泊行事で一人部屋の使用を認める可能性はありますか。

芦澤校長:そもそも宿泊行事の教育的意味は仲間達と共に寝食を共にして相互理解を図ることを目的と考えますので、実施する必要が無いと考えています。ですので、今後の宿泊行事に関して1人部屋の使用や個人行動の許可などは考えていません。

山崎先生:宿泊行事で1人部屋使用は厳しいと思います。約150名の部屋を確保することが難しいからです。

小数人の1人部屋というのを認めて、事前に予約するのも難しいと考えます。集団での行事なので制限がないと収集がつかなくなってしまうからです。

着替えやお風呂などは配慮することはできます

Q5.現在、学内にあるバリアフリートイレが物置状態になってしまっていますが、使用できる状態にする予定はありますか？

芦澤校長:今回の質問とは別に、今回の入試でも車椅子の受験生からの問い合わせがありました。(結局受験には至りませんでした)本校の校舎はバリアフリーになっています。今後は車椅子の生徒達が入学してくることも考えられますので、あらためてバリアフリートイレ内の整理や校舎内の整理を実施しようと考えています。時期は未定ですが、使用できるようにしようと考えています。

山崎先生:バリアフリートイレは必要なので、使用できるようにしたいです。

上記の回答をいただきました。

## 5.返答の分析

Q1では、制服や体操着について生徒が声を上げていくことで変えていける可能性のある前向きな項目であることが分かった。

Q2では、不必要な場面で「女子だから」などの発言は減らしていくべきだと回答を頂いたが、必要な場面であるのか不必要な場面であるのかは当該発言をしている人には適切な判断は難しいようにも感じた。私が必要だと思う場面は性教育の場のみである。だが、それも必要ないという人や、性差の強調が必要な場面をもっと思いつく人もいるだろう。そのため、山崎先生の回答にもあったように研修などで知る機会を作ったりするなどの教職員側での行動が必要のように思えた。

Q3では、女子校であるということもあり共学以上に当該生徒との話し合いが必要になるかもしれない。だが、どうしても苗字をさん付けで呼ぶことには限界があり、名前を呼ぶ場面や書かなければいけない場合があるため深く話し合えたら良いと思う。

Q4では、文部科学省はホームページ(\*3)で支援の事例として一人部屋の使用を求めるなどを挙げているが、現実的には難しいと感じた。だが、実際に神田女学園でも入浴については配慮が行われていることも考え、学校の状況などによって対応が変わってくることに期待したい。

Q5では、使えるようにしていきたいと前向きな回答であったため、できるだけ早く使用できるようになって欲しいと思う。

(\*3)[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/27/04/1357468.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/1357468.htm) 2024/02/12

## 6.結論

上記のことから、声を上げ続け変えていくために努力することが大切であると分かってきた。また、現状を知っていても言われるまで動かないことが多いとも感じた。

先日公開されたニュース記事(\*4)では、一部の私立女子校に実施されたトランスジェンダーの受け入れについてのアンケートの結果が公開された。賛否両論あるものの様々な対応をする学校があり、対応をひとまとめに全国的に統一することは難しいのかもしれない。

今すぐに様々なことが変わっていくのは厳しいと思うが、後の生徒のためにも少しずつでも話し合う必要があると思った。

(\*4)<https://www.sankei.com/article/20240210-NHWV3LCXBFOU5CI4T2XRCMUUME/>  
2024/02/12

## 参考資料一覧

こころの性別とからだの性別が一致していない人 <https://jobrainbow.jp/magazine/transgid>  
2024/02/04最終閲覧

FTM・FTX・MTF・MTX 出典：<https://jobrainbow.jp/magazine/transgid> 2024/2/16最終閲覧

ノンバイナリー 出典：<https://jobrainbow.jp/magazine/whatisnonbinary> 2024/2/16最終閲覧

性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/27/04/1357468.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/1357468.htm)2024/02/12最終閲覧

産経新聞ニュース：女子学院「絶対に認めない判断しない」、神戸女学院「今後検討」トランスジェンダー生徒受け入れ 2024年2月10日

<https://www.sankei.com/article/20240210-NHWV3LCXBFOU5CI4T2XRCMUUME/>  
2024/02/12最終閲覧